



研究テーマ

1 中世日本を訪れた異国使節

2 唐物からみた中世日本(特に輸入陶磁器を中心に)

3 南九州・沖縄における交流



関 周一

せき しゅういち
教育学部
社会科教育
歴史学(日本史)

教授

キーワード

中世、海域アジア、交流、
異国使節、日本観察、唐
物、陶磁器、琉球、遣明
船、唐人町、油津、飫肥、
都城

特許情報・
共同研究・
応用分野など

研 究 概 要

中世日本(対象とするのは、9～17世紀)において、日本と中国・朝鮮・琉球などのアジア諸地域の人々との交流の歴史について研究しています。日本という枠に留まらない「海域」という場を設定して、国家や民衆の姿を考える「海域アジア史」の視点から研究を進めています。

1 中世日本を訪れた異国使節

中世日本には、中国(元・明)、朝鮮(高麗・朝鮮王朝)、琉球の使節が、外交を目的として、室町幕府や諸大名と交渉していました。彼らのような異国使節が、日本でどのような活動をし、外交においてどのような役割を果たしているのかについて研究しています。また異国使節の記録の中には、日本人が気づかなかった日本の姿を記述しているものが数多くあり、異国の人々がみた日本の姿を研究しています。

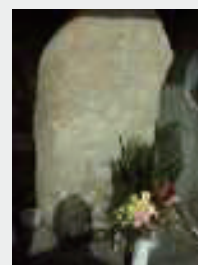
2 唐物からみた中世日本(特に輸入陶磁器を中心に)

唐物(からもの)は、主に中国から輸入された高級舶来品、すなわち中国ブランドの舶来品をさすことばです。どのような唐物が輸入され、どのように流通し、どのような人々が消費し、また唐物がどのように伝来したのかなどについて調査しています。

唐物のうち、中国・朝鮮や東南アジアからの輸入陶磁器については、日本における輸入陶磁器の分布から、中世社会における流通や消費などを研究しています。

3 南九州・沖縄における交流

中世の南九州—現在の宮崎県(日向国)・鹿児島県(薩摩国・大隅国)は、奄美諸島、トカラ列島や、琉球諸島などの南島との交流は活発でした。琉球帝国を軸に展開される日向国、薩摩国、奄美諸島、宮古・八重山群島などとの海を通じた交流の諸相を研究しています。宮崎県では、遣明船が停泊した油津や、都城と飫肥における唐人町が注目されます。



何欽吉の墓
(都城市鷹尾1丁目)

ホームページ

技術相談に応じられる関連分野

メッセージ